

1 三重県の自殺の現状と特徴

- 自殺者数は減少傾向となっていますが、全国の令和 2（2020）年の自殺者数は 20,243 人（人口動態統計）で新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、自殺の要因となる様々な問題が悪化したことにより、自殺者数が 11 年ぶりに増加しました。三重県は 269 人であり前年に比べ 7 人減少しています。
- 自殺死亡率は全国と同様な傾向で推移しており、令和 2（2020）年は 15.7 で、全国では低い方から数えて第 15 位になっています。
- 自殺者数は、男性が約 7 割となっています。女性は約 3 割ですが、令和 2（2020）年は 94 人であり前年に比べ 14 人増加しています。
- 20 歳代、30 歳代において自殺は死因順位の第 1 位となっています。
- 自殺者数は、40 歳代が最も多く、次いで、50 歳代、60 歳代となっています。40 歳代から 60 歳代の自殺者数が全体の約半数を占めています。
- 子ども・若者の自殺者数と全体に占める割合は、平成 29（2017）年から減少しましたが、令和 2（2020）年は 24.9%と増加しています。未成年者の割合はおおむね 3.0%前後で推移しています。
- 保健所管轄地域別の年齢調整自殺死亡率の推移は、地域による差がみられます。令和 2（2020）年は、自殺死亡率が最も高い地域は鈴鹿保健所の 22.6 です。最も低いのは伊賀保健所の 8.4 です。
- 標準化死亡比は、男女とも全国を下回っています。
- 市町別自殺死亡率は、全国と比較すると、高い値になっています。
- 令和 3（2021）年の職業別割合は、男性では「被雇用・勤め人」、「年金・雇用保険等生活者」、「失業者・その他の無職者など」が多くなっています。女性では、「年金・雇用保険等生活者」、「主婦」、「被雇用・勤め人」が多くなっています。
- 自殺の原因・動機は「健康問題」が最も多く、次いで男性では「勤務問題」、女性では「家庭問題」が多くなっています。

参考 厚生労働省の「人口動態統計」・「地域における自殺の基礎資料」と警察庁の

「自殺統計」の説明

厚生労働省「人口動態統計」

- ・ 日本人（日本における日本人）を対象とし、住所地をもとに死亡時点で計上しています。
- ・ 自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明な時は自殺以外で処理しており、死亡診断書などについて作成者から自殺の訂正報告がない場合は、自殺に計上していません。
- ・ 都道府県からの報告漏れによる再集計を行ったことにより、以前の数値とは一致しないことがあります。

警察庁「自殺統計」

- ・ 総人口（日本における外国人も含む）を対象としています。
- ・ 「住居地・自殺日」および「発見地・発見日」でそれぞれ集計しています。
- ・ 「住居地・自殺日」および「発見地・発見日」の取り扱いは、「地域における自殺の基礎資料」と同じ意味合いで集計しています
- ・ 本計画での警察統計は、「住居地・自殺日」をもとにした集計結果を掲載しています。

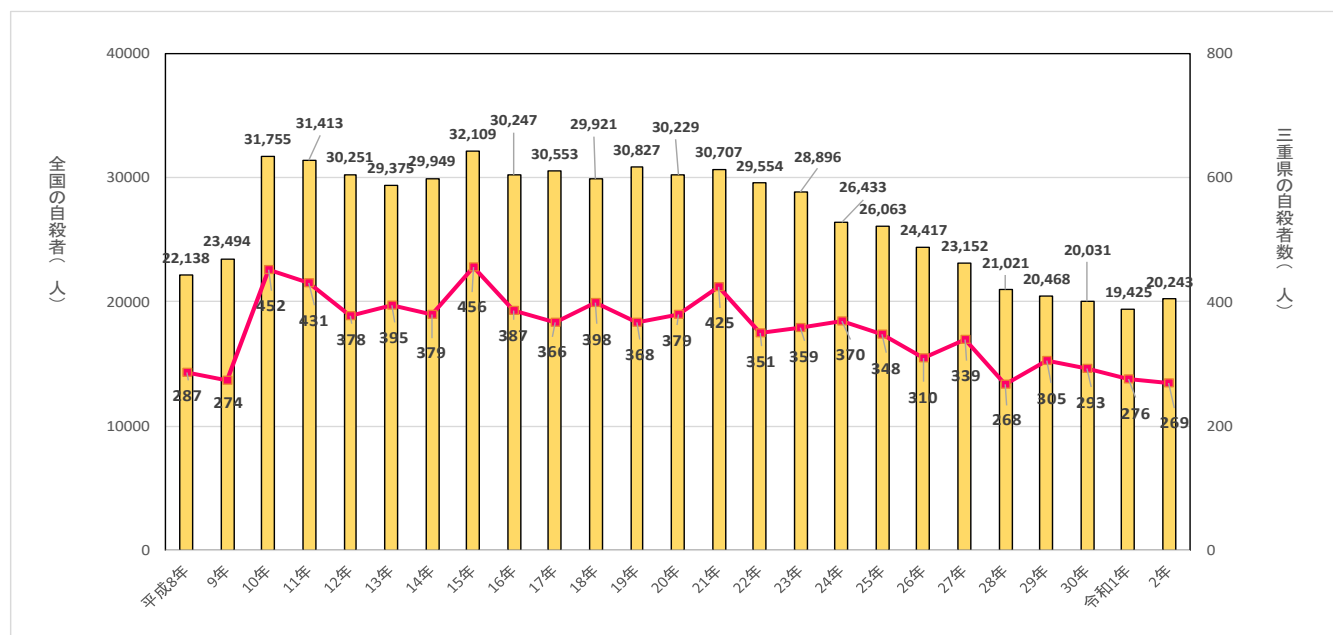
厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

- ・ 総人口（日本における外国人も含む）を対象としています。
- ・ 「住居地・自殺日」および「発見地・発見日」でそれぞれ集計しています。
- ・ 「住居地・自殺日」の「住居地」とは、自殺者の住居があった場所、「自殺日」とは、自殺をした日を意味しています。
- ・ 「発見地・発見日」の「発見地」とは、自殺死体が発見された場所、「発見日」とは、自殺死体が発見された日を意味しています。

2 三重県の自殺者数・自殺死亡率の推移

- 全国の自殺者数は平成 22（2010）年以降減少傾向にありましたが、令和 2（2020）年は新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、自殺の要因となり得る様々な問題が悪化したことにより、自殺者数は 11 年ぶりに増加しました。本県の令和 2（2020）年の自殺者数は 269 人です（図 2－1）。

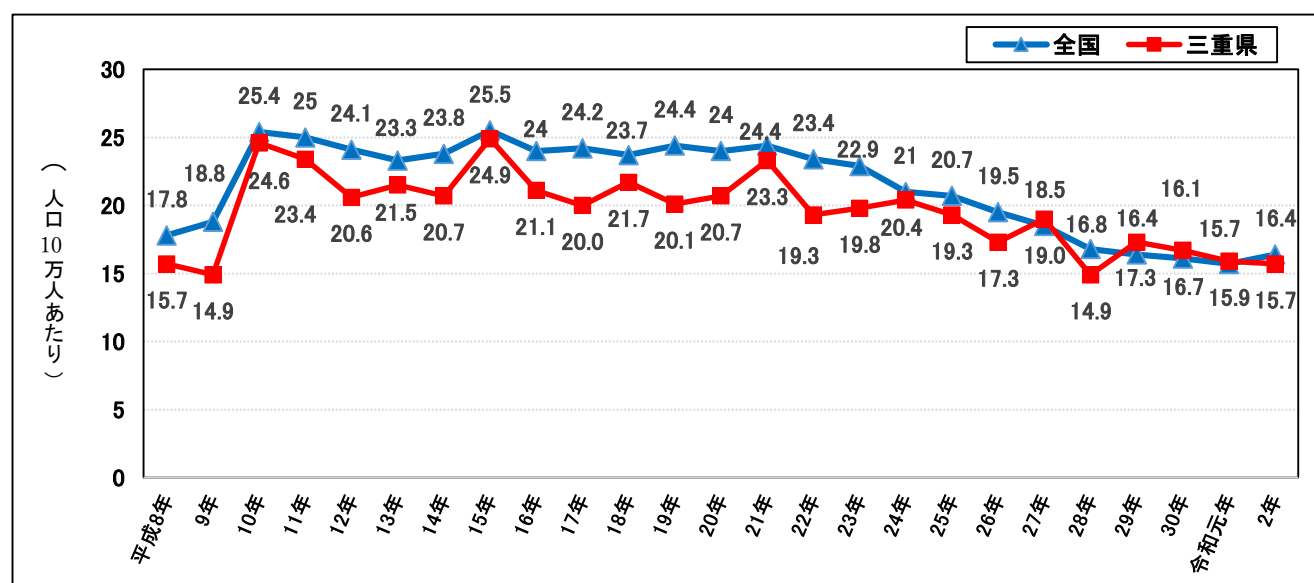
図 2－1 全国と三重県の自殺者の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

- 全国の自殺死亡率は平成 22（2010）年頃から減少し始め、平成 26（2014）年以降は 20.0 以下で推移しています。一方、本県の自殺死亡率はおおむね全国と同様な傾向で推移をしており、令和 2（2020）年は 15.7 となっています（図 2－2）。

図 2－2 全国と三重県の自殺死亡率の推移



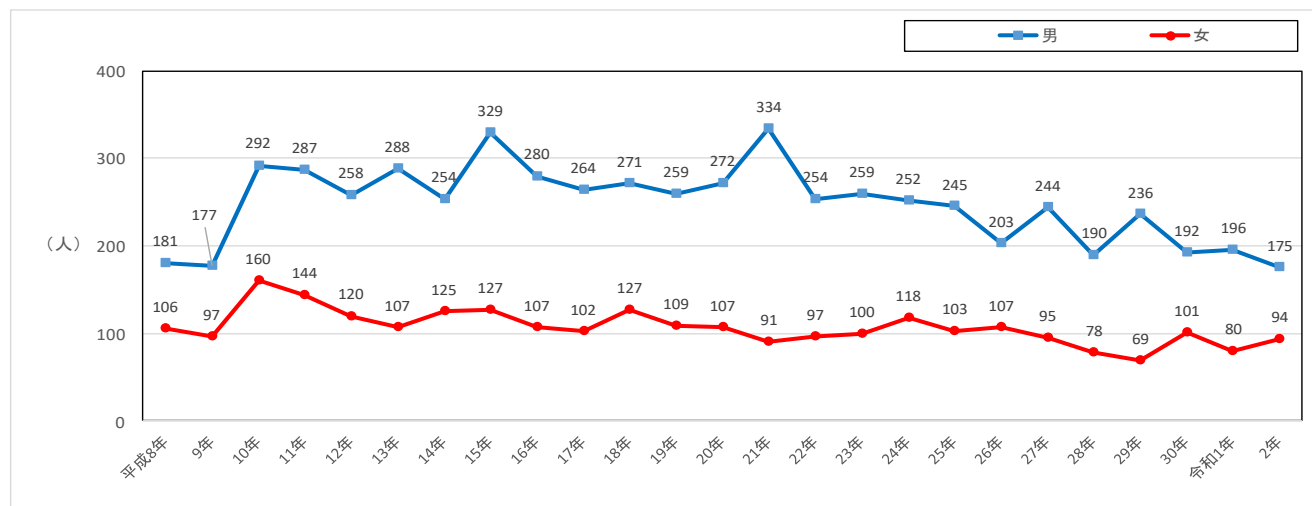
出典：厚生労働省「人口動態統計」

出典：厚生労働省「人口動態統計」、「みえの健康指標」

3 性別による自殺の状況

- 本県において、男性の自殺者数は平成 15（2003）年、平成 21（2009）年にピークがあり、平成 22（2010）年以降はおおむね 250 人前後で推移していました。平成 30（2018）年以降は 200 人程度に減少し、令和 2（2020）年は 175 人でした。女性の自殺者数はおおむね 100 人前後で横ばい状態ですが、令和 2（2020）年は 94 人であり前年に比べ 14 人増加しています（図 3－1）。

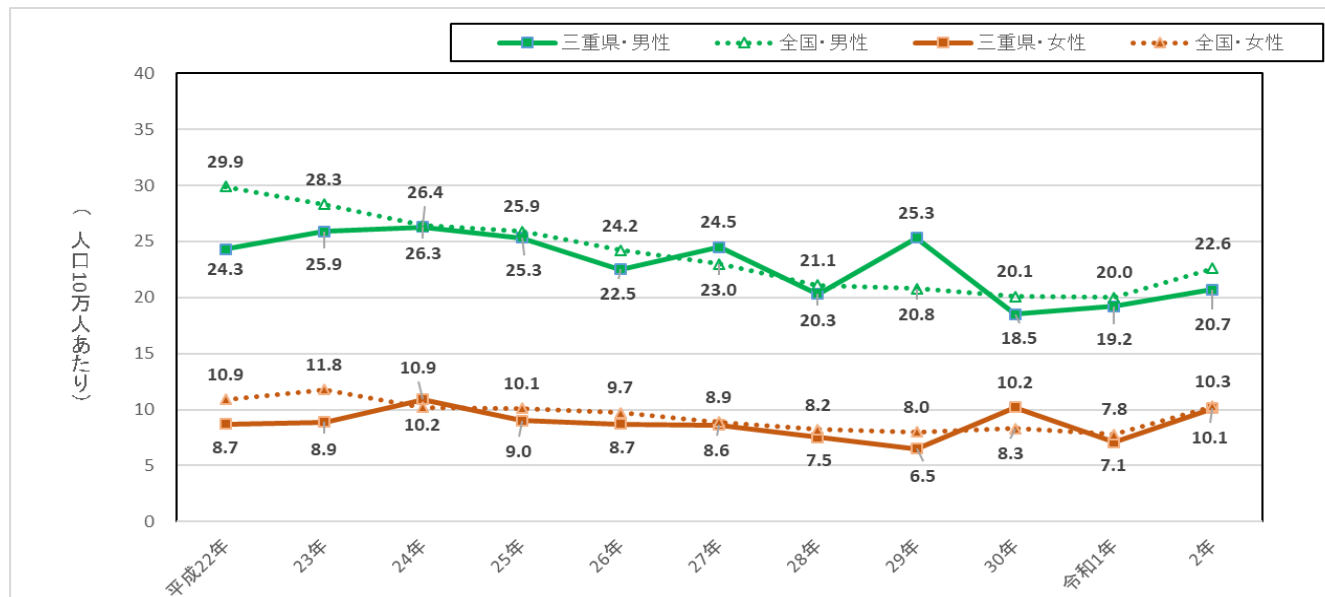
図 3－1 三重県の性別自殺者数の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

- 本県の性別年齢調整自殺死亡率では、男性は全国とおおむね同程度ですが、平成 29（2017）年は全国を大きく上回っています。女性は平成 24（2012）年、平成 30（2018）年に全国を大きく上回っていますが、ほぼ全国と同様の傾向です（図 3－2）。

図 3－2 全国と三重県の性別年齢調整自殺死亡率の推位



出典：厚生労働省「人口動態統計」、三重県「三重県の人口動態」

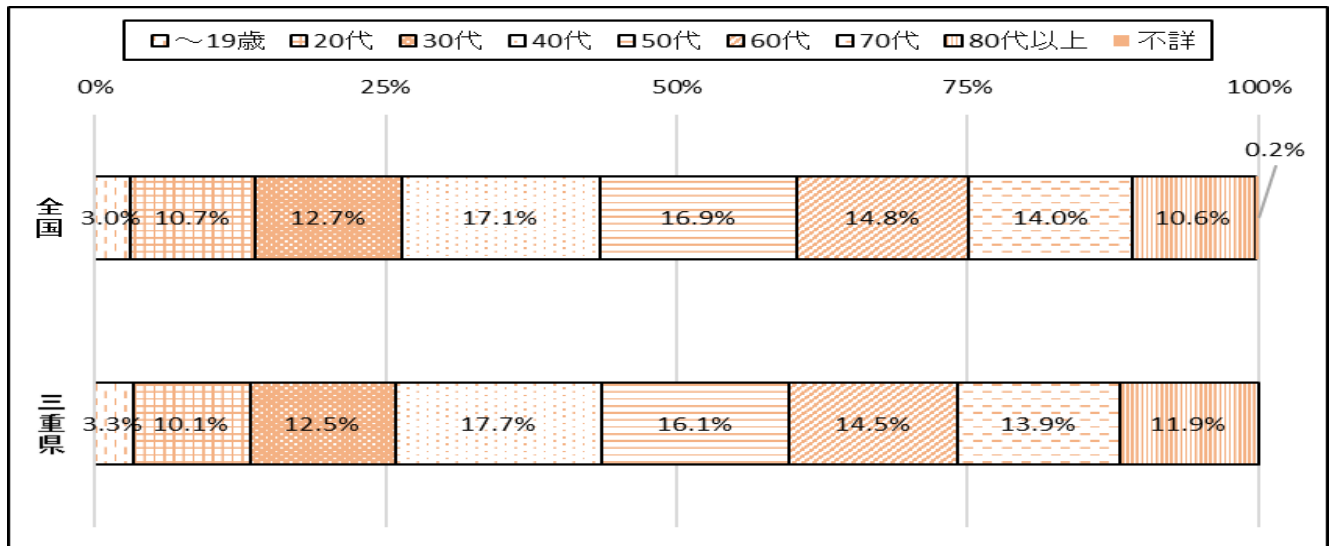
(注) 全国のは厚生労働省「人口動態統計」、三重県のは「三重県衛生統計年報」を用いました。

(注) 国の公表値に合わせるため、令和 2 年は算定の基礎となる基準人口モデルを「昭和 60 年モデル」から「平成 27 年モデル」を用いています。

4 性別・年齢階級別による自殺の状況

- 全国の自殺者の年代別割合は、40 歳代が最も多く、次いで 50 歳代、60 歳代となっています。本県の自殺者の年代別割合も、40 歳代が最も多く、次いで 50 歳代、60 歳代となっています（図 4－1）。

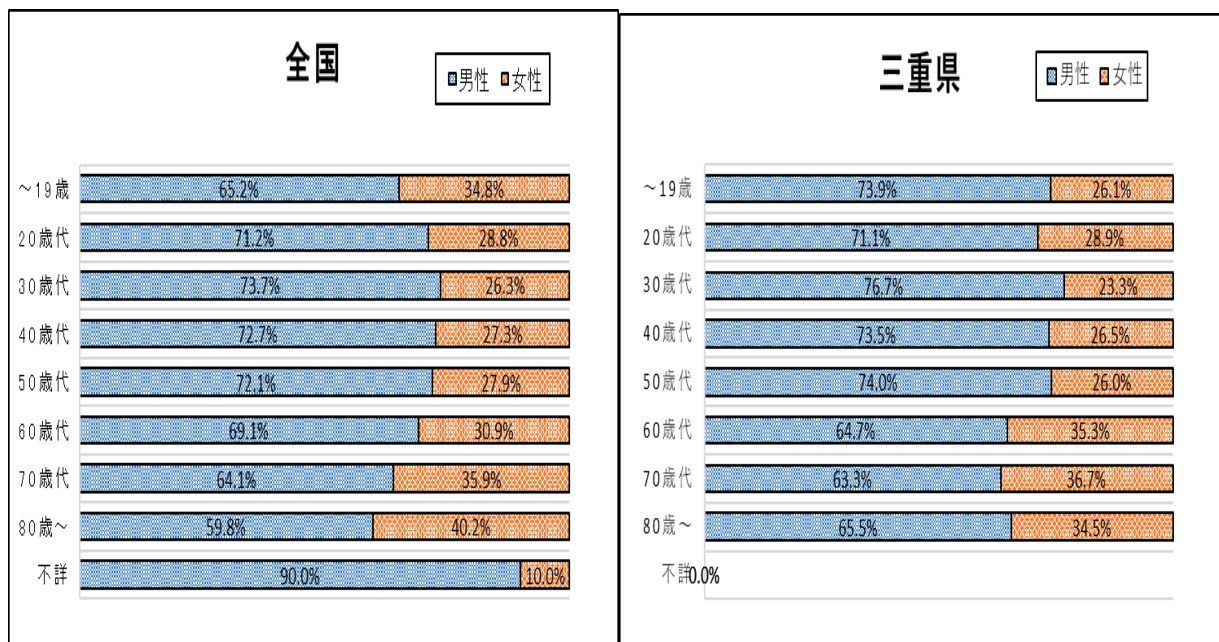
図 4－1 平成 28 年～令和 2（2016～2020）年（累計）の全国と三重県の自殺者の年代別割合



出典：厚生労働省「人口動態統計」

- 全国における年代別の自殺者の性別割合は、約 7 割は男性です。60 歳代以降、高齢になるにつれて女性の割合が増えています。本県もおおむね同様で、各年代における自殺者の約 7 割は男性です。60 歳代以降で女性の割合が増えています。

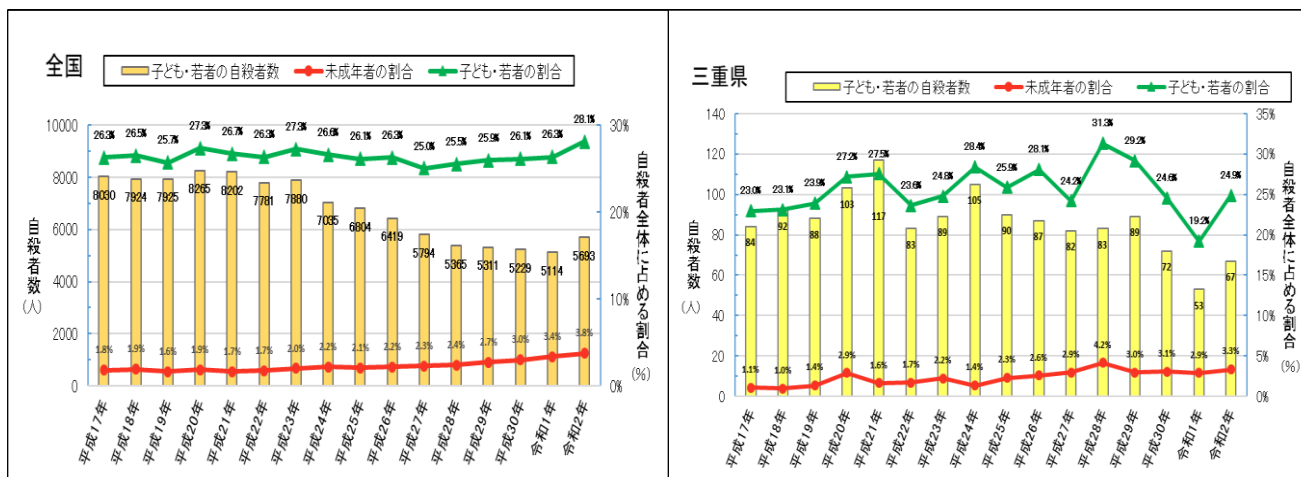
図 4－2 平成 28～令和 2（2016～2020）年（累計）の全国と三重県の年齢階級別自殺者の性別割合



出典：厚生労働省「人口動態統計」

- 子ども・若者（40歳未満）、未成年者の自殺者数と全体に占める割合の平成27（2015）年から令和2（2020）年の推移をみると、全国の子ども・若者の自殺者数は平成27（2015）年以降は5,500人前後で、全体の26%前後で推移しています。未成年者の割合は、平成30（2018）年以降増加傾向です。本県の子ども・若者の自殺者数は年によりばらつきがあります。子ども・若者の割合は平成28（2016）年にピークがあり、平成29（2017）年から減少しましたが、令和2（2020）年は24.9%と増加しています。未成年者の割合はおおむね3.0%前後で推移しています（図4-3）。

図4-3 子ども・若者（40歳未満）、未成年者の自殺者数の推移と全体に占める割合の推移

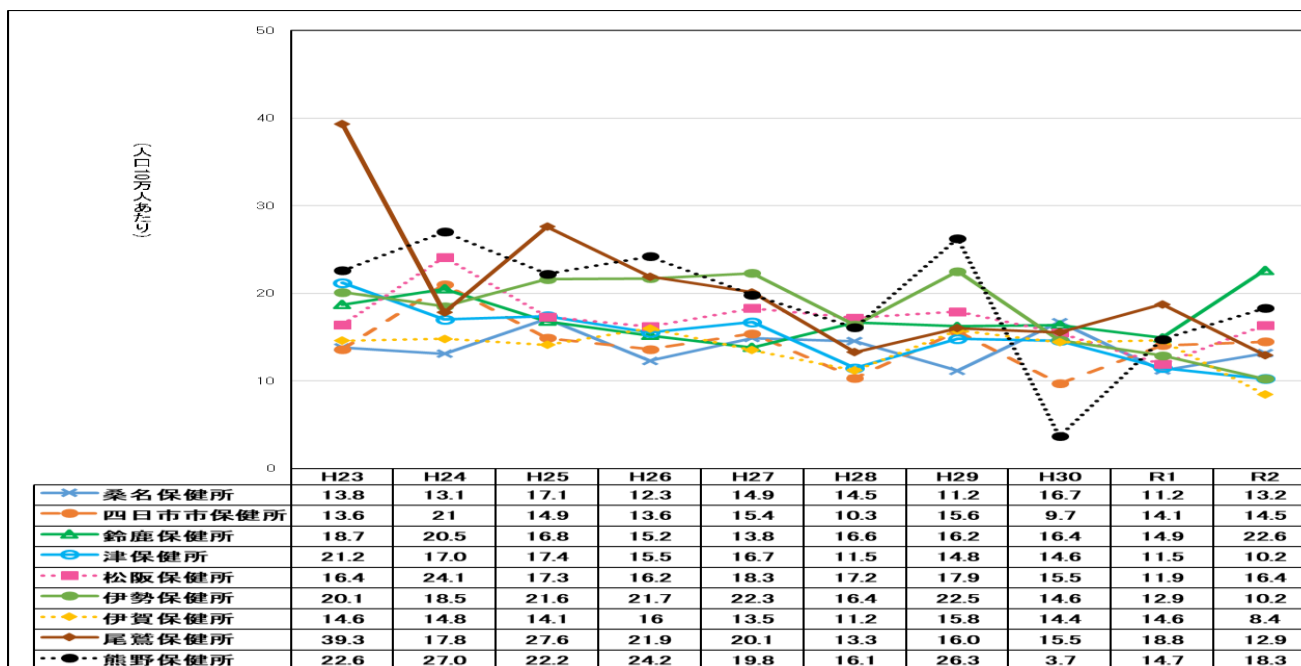


出典：厚生労働省「人口動態統計」

5 保健所管轄地域別・市町別の自殺の状況

- 保健所管轄地域別の年齢調整自殺死亡率の推移をみると、地域による差がみられます。令和2（2020）年において、自殺死亡率が最も高い地域は鈴鹿保健所の22.6です。最も低いのは伊賀保健所の8.4です（図5-1）。

図5-1 三重県の保健所管轄地域別年齢調整自殺死亡率の推移

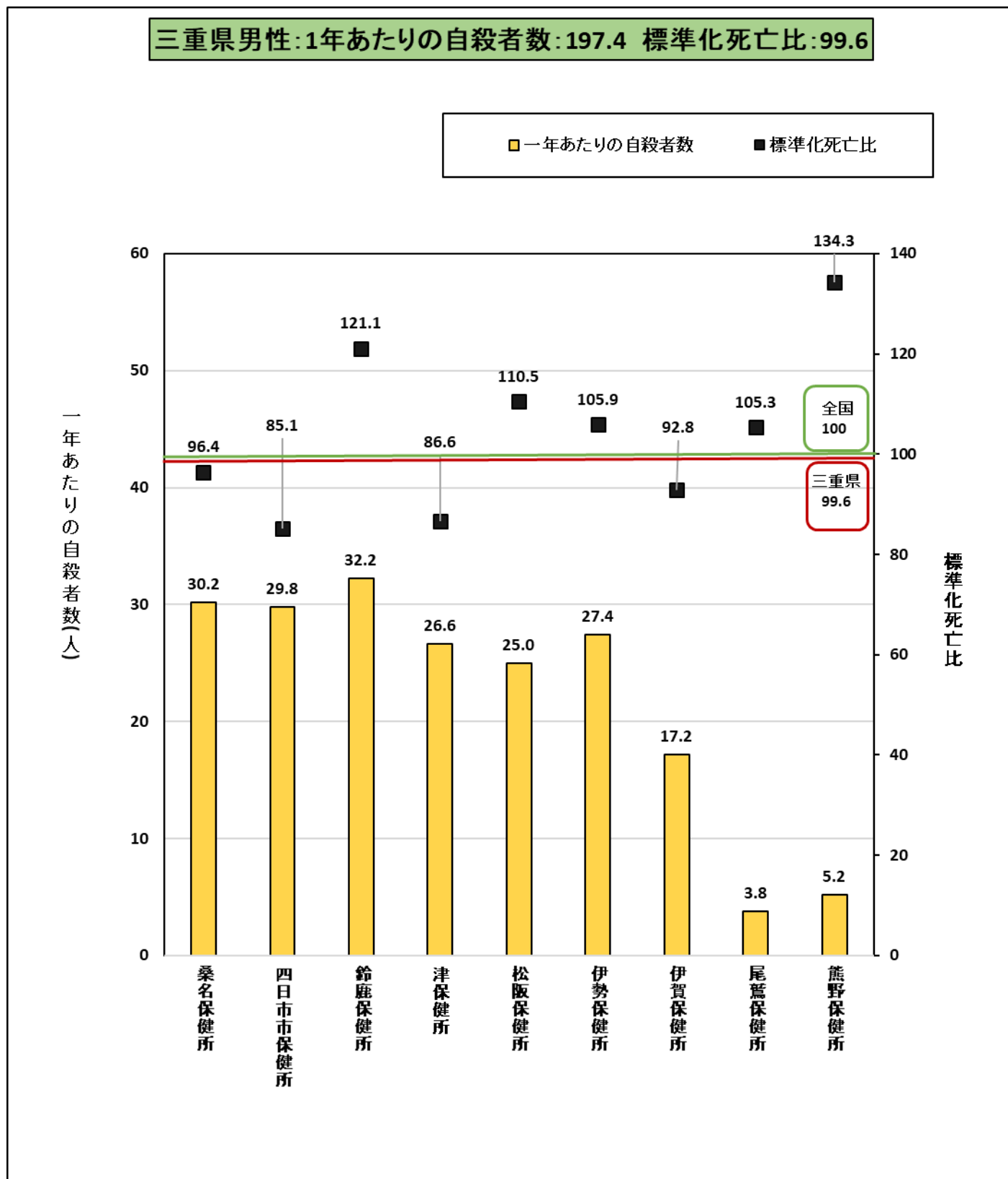


(注) 基準人口モデルは「昭和60年モデル」を用いています。

出典：三重県「三重県の人口動態」

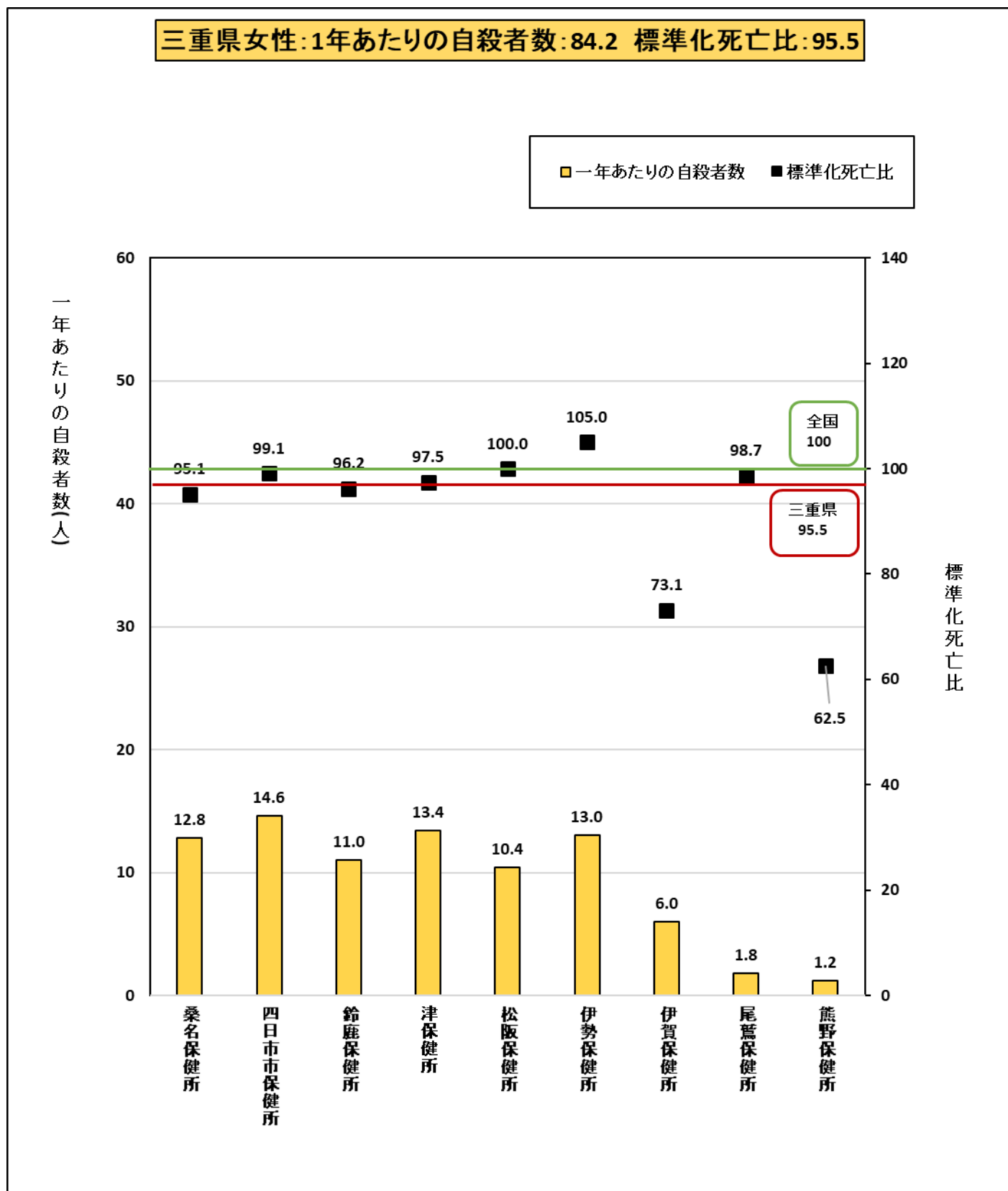
- 本県の男性の標準化死亡比は、全国を下回っています（三重県 99.6 対全国 100）。
 保健所別に比較すると、熊野保健所は 134.3、鈴鹿保健所は 121.1、松阪保健所は 110.5、伊勢保健所 105.9、尾鷲保健所 105.3 と高くなっています。一方、四日市市保健所は 85.1、津保健所は 86.6 と低くなっています（図 5－2）。

図 5－2 平成 28～令和 2（2016～2020）年の三重県の男性における保健所管轄地域別自殺者数および標準化死亡比（5 年間の平均）



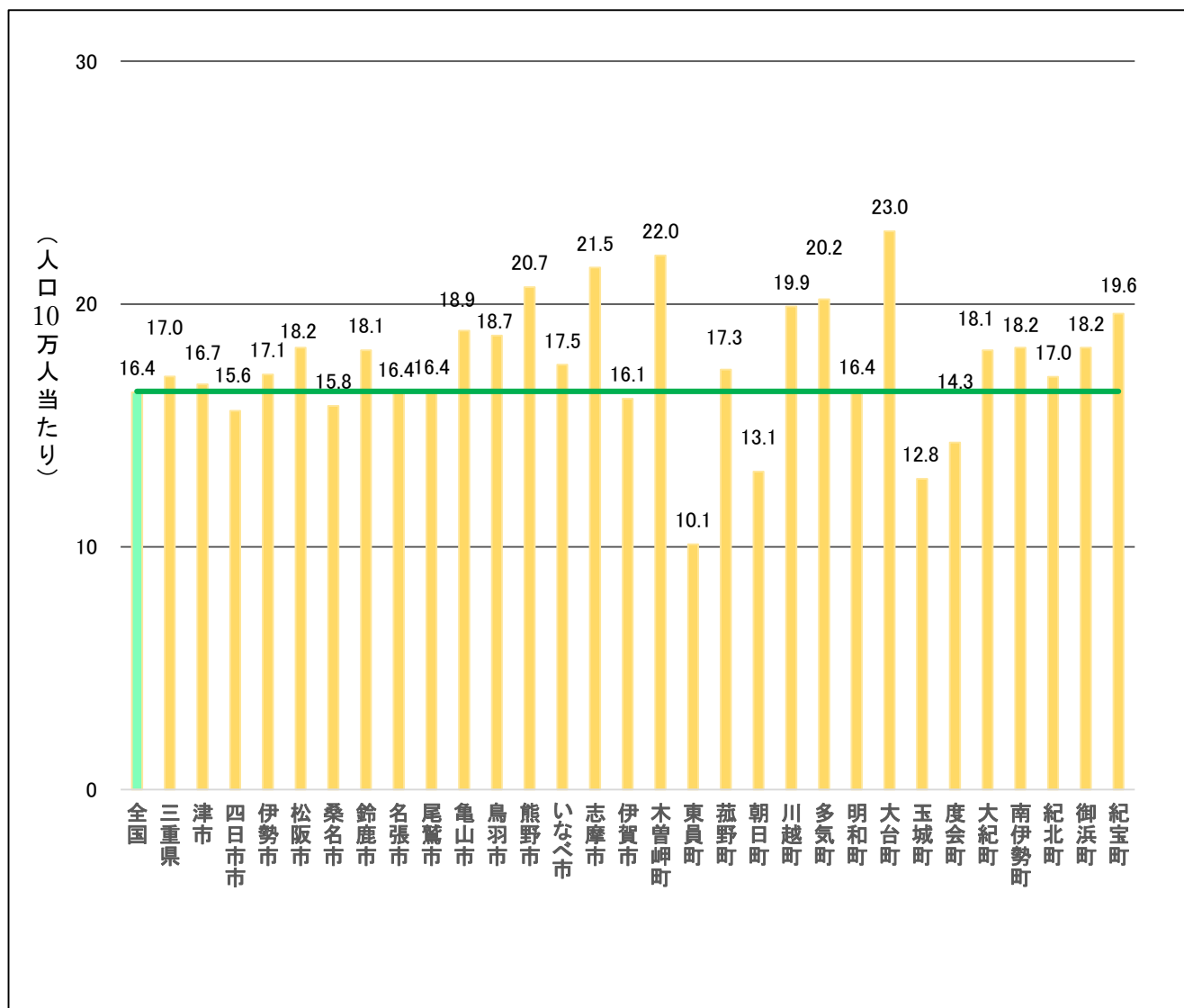
- 本県の女性の標準化死亡比は、全国を下回っています（三重県 95.5 対全国 100）。
保健所別に比較すると、伊勢保健所は 105.0、松阪保健所は 100.0 と高くなっています。一方、熊野保健所は 62.5、伊賀保健所は 73.1 と低くなっています（図 5－3）。

図 5－3 平成 28～令和 2（2016～2020）年の三重県の女性における保健所管轄地域別自殺者数および標準化死亡比（5 年間の平均）



○ 本県の市町別自殺死亡率は、全国と比較すると、高い値になっています。しかし、県内の市町を比較すると大台町が23.0と最も高く、次いで木曽岬町22.0、志摩市21.5となっています。一方、東員町が10.1と低く、玉城町が12.8、朝日町が13.1と低くなっています（図5－4）。

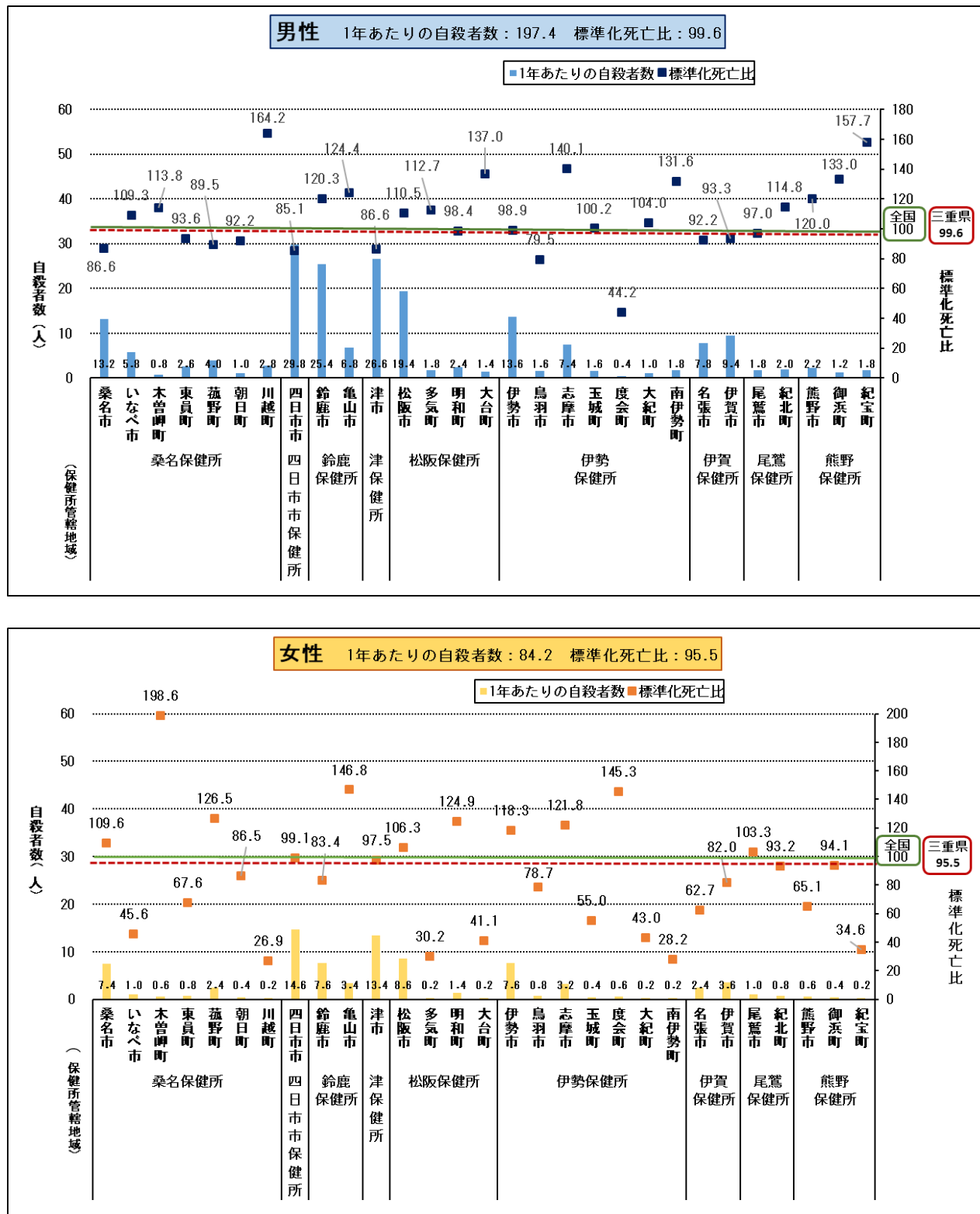
図5－4 平成28～令和2（2016～2020）年（5年間の平均）の三重県の市町別自殺死亡率



出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」

- 平成 28 (2016) から令和 2 (2020) 年の各市町における標準化死亡比は、男性では川越町 164.2、紀宝町 157.7、志摩市 140.1 と高く、女性では木曽岬町 198.6、亀山市 146.8、度会町 145.3 と高くなっています。一方低い市町は、男性では度会町 44.2、鳥羽市 79.5、四日市市 85.1 であり、女性では川越町 26.9、南伊勢町 28.2、多気町 30.2 となっています (図 5-5)。

図 5-5 平成 28～令和 2 (2016～2020) 年の三重県の性別・市町別自殺者数および標準化死亡比 (5 年間の平均)



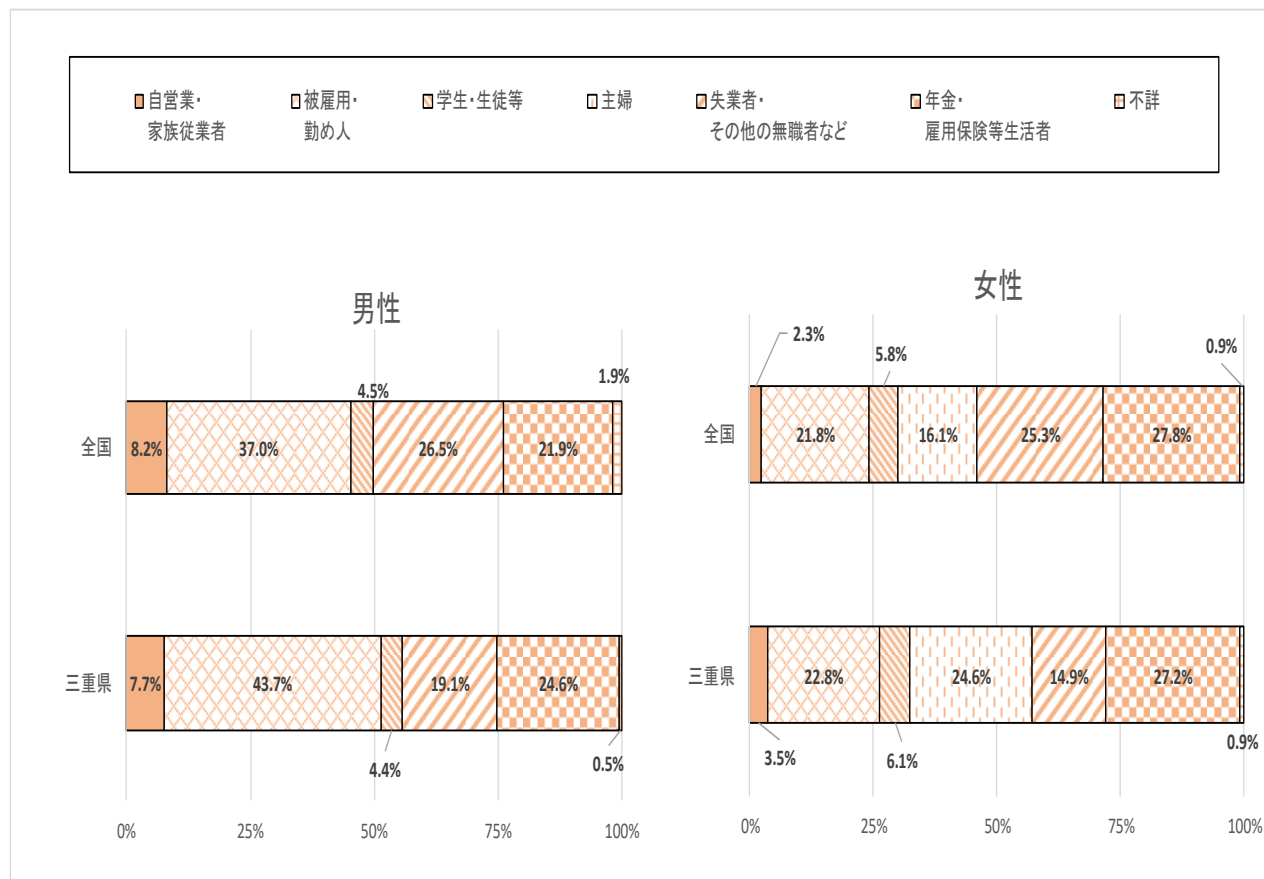
出典：厚生労働省「人口動態統計」、三重県「三重県の人口動態」

6 職業別の自殺の状況

○ 全国の令和3（2021）年の自殺者の職業別割合をみると男性は、「被雇用・勤め人」、次いで「失業者・その他の無職者など」、「年金・雇用保険等生活者」が多くなっています。本県においては、「被雇用・勤め人」、次いで「年金・雇用保険等生活者」「失業者・その他の無職者など」が多くなっています。

女性では、「年金・雇用保険等生活者」、次いで「失業者・その他の無職者など」、「被雇用・勤め人」が多くなっています。本県は、「年金・雇用保険等生活者」、次いで「主婦」、「被雇用・勤め人」が多くなっています（図6－1）。

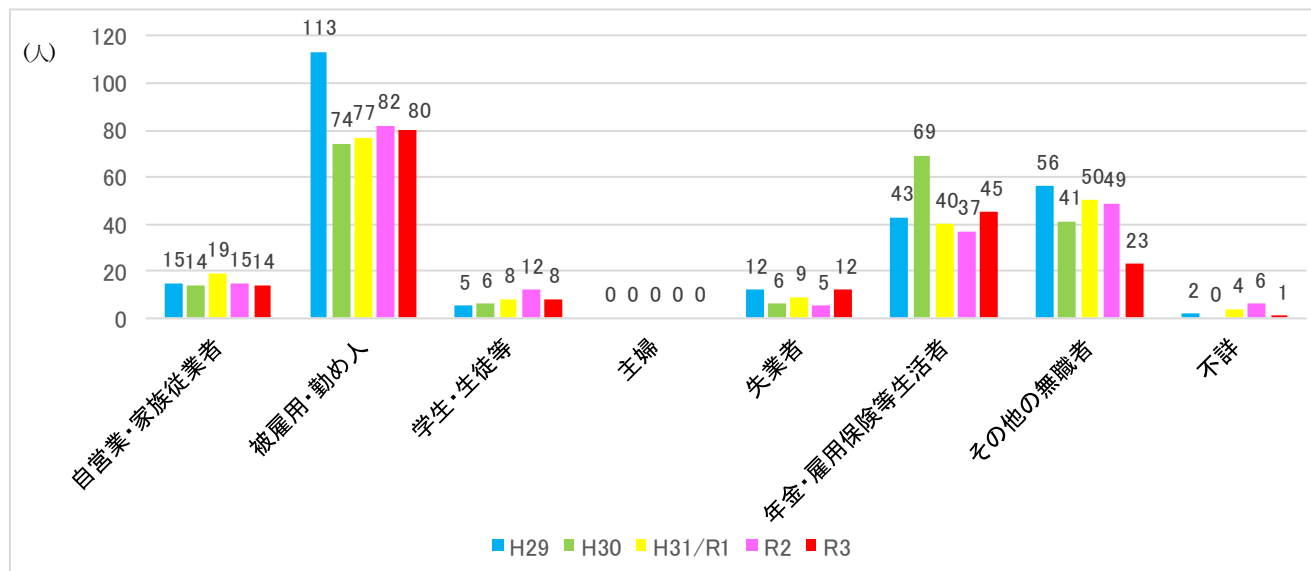
図6－1 令和3（2021）年の全国と三重県の自殺者の職業別割合



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

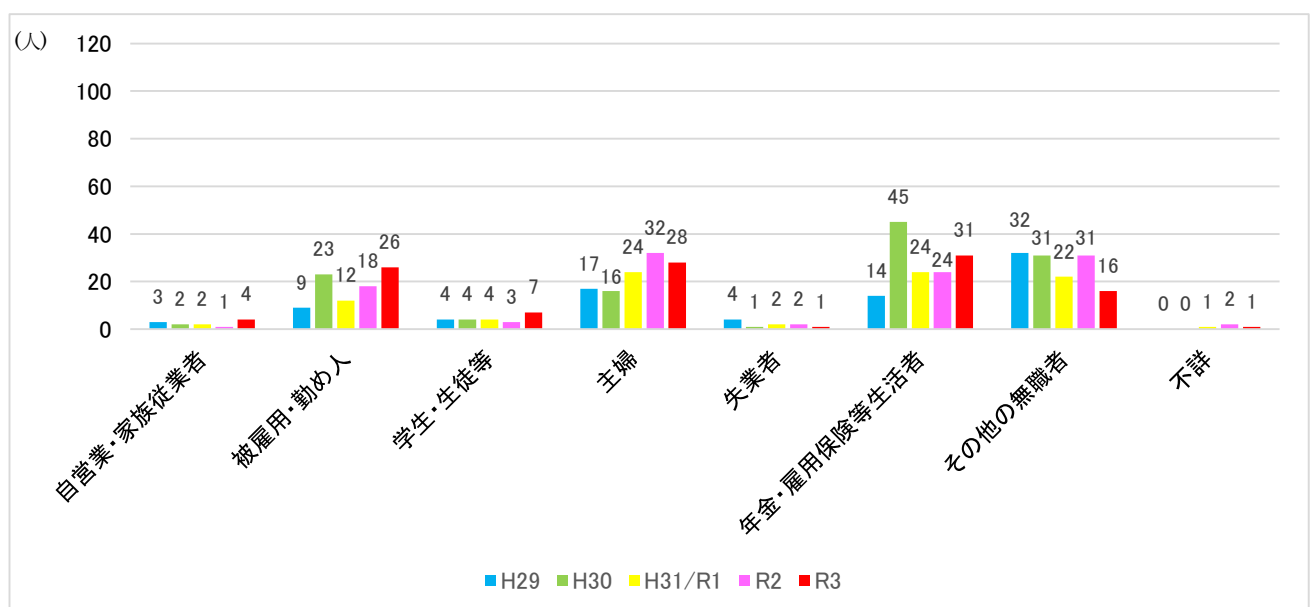
- 本県の職業別自殺者数の平成 29（2017）年から令和 3（2021）年の推移を性別でみると、いずれの年も男性では、「被雇用・勤め人」に次いで「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」が多くなっています。女性では年によりばらつきがありますが、「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」、「主婦」が多くなっています（図 6－2）（図 6－3）。

図 6－2 三重県の性別・職業別自殺者数の推移（男性）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

図 6－3 三重県の性別・職業別自殺者数の推移（女性）

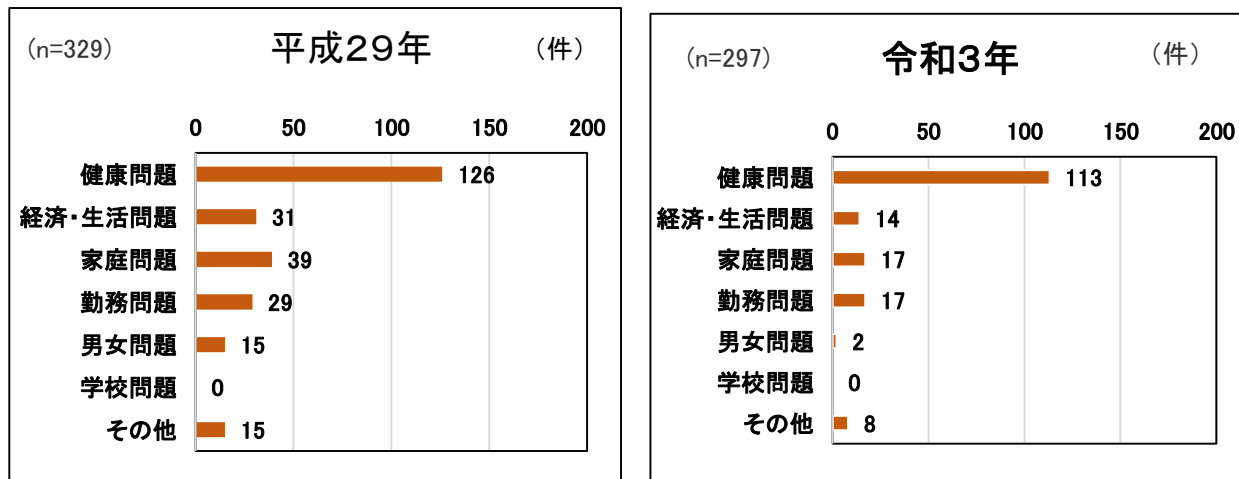


出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

7 原因・動機別の自殺の状況

- 本県の自殺の原因・動機別件数の平成 29（2017）年は「健康問題」が最も多くなっています。次いで、「家庭問題」、「経済・生活問題」となっています。令和 3（2021）年は「健康問題」が最も多く、次いで、「家庭問題」、「勤務問題」となっています（図 7－1）。

図 7－1 平成 29（2017）年および令和 3（2021）年の三重県の自殺の原因・動機別件数

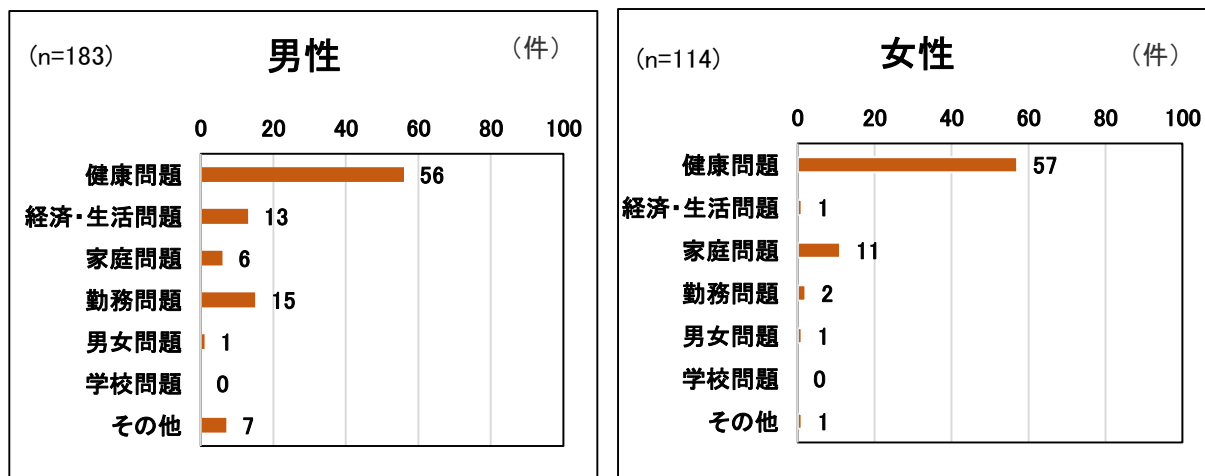


出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

- (注) 遺書などの自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機別の和と自殺者数とは一致しません。
- (注) 原因・動機が不詳は除いています。

- 本県の令和 3（2021）年の自殺の原因・動機を性別でみると、男性では「健康問題」に次いで、「勤務問題」、「経済・生活問題」が多くなっています。女性では「健康問題」に次いで、「家庭問題」が多くなっています（図 7－2）。

図 7－2 令和 3（2021）年の三重県の性別自殺の原因・動機別件数



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

- (注) 遺書などの自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機別の和と自殺者数とは一致しません。
- (注) 原因・動機が不詳は除いています。